

産総研と地域企業

# 産業振興で連携

## POPs条約対応にらむ

### 柴田科学

#### 海外展開狙う

柴田科学（埼玉県草加市）は1921年、理化学ガラス器具を製造・販売する企業として誕生し、現在は労働衛生・大気環境分野などの環境計測機器製品も製造・販売している。ダイオキシン類や作業環境測定などの分野で使われるサンプリング機器ではトップシエ

PFASs この課題に取り組む

### 次世代環境測定技術に挑戦

ため、大学や国の研究機関などを訪ねて情報収集を行う過程で、産業界技術総合研究所の研究者から、POPs条約に追加されたペルフルオロオクタンスルホン酸や炭素数の異なる関連物質であるペルフルオロアルキル化合物（PFASs）などの

約に追加されたペルフルオロオクタンスルホン酸や炭素数の異なる関連物質であるペルフルオロアルキル化合物（PFASs）などの

話を受けた。これらの物質は環境汚染への影響が大きい

が、既存の測定法では対応できず、国際的に信頼性の確保された測定技術の開発が急務と



捕集装置 試作した大気試料低温

#### 一言メッセージ

産総研環境管理研究部門 上級主任研究員

山下 信義

国内最大手ガラス計量器メーカーとしての現状に満足せず、あえて困難な樹脂製装置開発に挑戦したことは創業者魂が受け継がれている事の証明であり、国際標準化された技術により世界企業へと脱皮、一層の発展が期待される。

#### 国際標準化

事業）に応募、採択され現在3年目を迎えて、事業化に向け邁進している。国際標準化 事業化に向けた一番の課題は国際的な信頼性の確保である。産総研と協力し国内外の学会でのアピールにより実績を重ねているが、事業化をスムーズに進めるためには国際規格への対応が不可欠。現